

「環境授業」を世界の子どもたちに



「ソーラアーク」(太陽光発電システム)

三洋電機グループは「環境保全」「青少年育成」「社会福祉」の分野を中心に、自社の経営資源や得意分野を活かしながら、地域社会が発展・充実し、共生していくことのできる社会貢献活動をおこなっている。新幹線の車中からもそのインパクトある外観がよく見える岐阜事業所の「ソーラアーク」は、クリーンエネルギーの可能性と夢を追求する当社グループのシンボル、そこには「環境」への強い思いがある。その思いを、未来を担う子どもたちに伝えるために始めたプログラムが「環境教育活動」である。

優れた充電電池「エネルーブ」

電池を通じてのユニークな「環境教育活動」は、2005年の「エネルーブ」の開発が契機となった。

エネルーブは約1000回(従来の倍)使える充電電池として、世界で初めて商品化された。1本で1000本分の価値がある優れた環境性を、社会貢献活動の視点で社外にアピールすることはできないだろうか、と考えたことが取り組みのスタートとなった。当社には「Think Gaia」というビジョンがある。これは「未来の子どもたちに美しい地球を還そう」という考えである。このビジョンをエネルーブで具現化したいと考えたのである。

電池について学ぶのは小学4年生、一番よく使う層も子どもたちだ。そこでターゲットを4年生以上の総合学習の枠に絞り活動を開始した。しかし、学校では企業の人間による直接授業への警戒感が強かった。商品PRが目目的だろう、と受け

三洋電機(株) コーポレートコミュニケーション本部
CSR部 コミュニケーション推進チーム
マネージャー 平田勇人

止められたからである。支援してくれた省庁の後押しも得ながら、先生方に粘り強く説明を続けていった。そうした活動の中で、企業の先端技術や商品子どもたちも知りたがっており、先生も教えたいというニーズがあることが分かってきた。そして06年4月、初めての環境授業の実施にこぎつけたのである。

電池から「地球環境」を考える

授業のテーマは「電池から地球環境を考えよう」。2時限の枠でテキストも当社が作成し、学校になるべく負担をかけないかたちでおこなう。授業はクイズ形式やワークショップ形式に加え、子どもたちがより興味を持つように「人間電池」の実験などを折り込み、地球の現状、「3R」(Reduce、Reuse、Recycle)の大切さ、電池の仕組みなどを楽しみながら学べるような工夫をした。この授業には、懸念されている理科離れへの対策や、社会や倫理教育にもつながるような要素も混じってい



「3R」について考える(群馬県)高崎西小の子どもたちと教材

ることから、先生方の評価も高い。子どもたちにとっても、いつもと違う外部の人による授業はインパクトがあるようで、まなごしも真剣だ。

07年からは、この活動の「共感の輪」を広げるために、教材や実験器具、講師用資料集を無料でNPOや環境団体、学校などに提供する活動も始めた。申込みは毎年約100件以上あり、その輪はどんどん広がりがつつある。

海外にも「環境授業」の輪を拡大

07年2月以降には北京や天津の日本人学校に出張し、海外で初めての環境授業を実施した。この授業には三洋現地会社の若手社員も参加した。彼らは製品への思いや夢について語りかけ、子どもたちからは「僕の将来の夢は環境問題に関する仕事をすることです」という嬉しい感想も寄せられた。

その後も海外での活動の場を広げ、シンガポール、ミュンヘン、パリなどでの環境授業を実施していった。これらの環境授業は日本人学校で実施したが、今年からは新たなスタイルの環境授業も始めることにした。それは現地会社の人たちによる現地校での環境授業である。

その第1回目は本年4月、シンガポールの現地校で実施された。この授業は、現地会社に勤務するシンガポールの社員たちにより英語教材で実施されたが、現地会社にとっても大きなメリットのある活動となった。自分たちの扱う商品の素晴らしさをあらためて認識し誇りに思うという、従業員のモチベーションアップにつながったのであ



「人間電池」実験成功！（ミュンヘン日本人国際学校）

る。そして子どもたちも父親を尊敬し、勤務する会社を誇りに思ってくれた。学校の先生、子どもたち、従業員、会社のそれぞれが環境授業の良さを感じてくれた。シンガポールではすでに12校の現地校で環境授業が実施されたが、この流れを加速するために、来年からはタイ・バンコクの現地校でも開始することを決定した。



(上)「人間電池」を体験する
(下) 環境について考える（シンガポール現地校）

われわれの環境授業を受けた世界の子どもたちは、11月5日現在で、115校、9160人となった。

現地の人たちや、NPOの人たちが実施した環境授業などを加えると、すでに2万人を超えた。「この授業を受けて本当に今地球が大変になっていることが分かった。僕も将来は環境に関する仕事につきたい」という感想文を寄せてくれ感動したこともあった。地球環境と向き合って生きていかなければならないこれからの子どもたち。彼らの未来のために、これからもこの活動の「共感の輪」をどんどん広げていきたいと考えている。■

◆三洋電機の環境・社会活動

<http://www.sanyo.co.jp/environment/>

◆三洋電機の環境教育活動

<http://www.sanyo.co.jp/eep/>